

NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

住所：〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1054 - 7 発行者：代表 喜安美紀 発行日：2009.11.23(通巻第4号)
HP：<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> E-mail：kids@zpost.plala.or.jp 設立：2004.2.11
TEL：090-5912-4515 FAX：089-985-0389 郵便振替口座番号：01600-5-13009 口座名義：アジア キッズ ケア

全国の支援者の皆様に対しまして、アジアキッズケアの支援活動へのご参加・ご協力感谢您しつつ、会報第4号をお届けします。この10・11月は、宮崎県の清武せいりゅう支援学校、愛知商業高校、愛媛県の新田青雲中等教育学校他、(株)タカツ商事様などからたくさんのノートや筆記具等の学用品、ピアノ等の楽器、衣類などの支援物資が届きました。学校や職場等のご友人などに呼びかけて収集したものが、心を込めて荷造りされており、箱を開いた時、多くの方々の暖かい気持ちが伝わってきました。毎月、このような支援物資が届きますが、皆様のまごころを添えて、アジアやアフリカの子どもたちに送付させていただきます。

2009.11.23

アジア キッズ ケア代表 喜安 美紀

支援物資(衣類、文具、楽器、日用品等)の発送

- ・2009. 4 インド：チェンナイ(7)
- ・2009. 5 ザンビア：カフィー(4)
- ・2009. 6 インド：ケララ、カシミール(6)
- ・2009. 7 マリ：カティ(7)
- ・2009. 8 カンボジア：カンボート、コンボンチャナング(4)、インド：チェンナイ(4)
- ・2009. 9 インド：アラハバット(2)、マラウィ：リロングウェ(4)
- ・2009.10 ガーナ：アクラ(4)、韓国：羅州市(2)
- ・2009.11 ザンビア：カフィー(2)、インド：ケララ、カシミール(4)

現在まで、(アジア)インド、カンボジア、タイ、韓国、ネパール(アフリカ)マラウィ、マリ、ガーナ、ザンビアの9か国 13 地域の子どもたちに、現地協力者と連携して支援物資を届けさせていただいております。

アジアキッズケアによる子ども支援の近況報告

今年度、新たに支援を開始したのは、インドのアラハバッドです。インドからの愛媛大学大学院留学生エルビスさん、サヒさんなどが当方の事務所を訪れたことを契機として、子ども支援と一緒に始めることとなりました。現地協力者は、サヒさんの両親で、彼らが既に開設した学校の子どもたちに対して、継続して勉学するための学用品等の支援が必要ということで、今後の支援についてのビジョンとプランを確認し、早速このインドのために支援物資を発送させていただきました。彼らは、母国の子ども支援活動に使命感を持っており、私たちはこのことをとてもうれしく感じました。

今後、経済的に支援が必要な子どもたちの教育・生活資金のサポートとともに、雨天時には授業のできない小学校校舎の建て替えに向けて、前進することとしております。彼らは、数年後、母国に帰国しますが、一番現地のことを知る彼らが主体となり、インドの子ども支援をさらに発展させてくれるはずです。アジアキッズケアは、こうした現地支援のリーダーとなる人材とつながり、育成・援助していくことが私たちの大切な役割ではないかと考えています。(小学校建設へのご協力をHPにてお願いさせていただいております)



(インド・アラハバットの私設小学校：雨天時は教室が水浸しになる状況にある。2009.9に学用品・教材等の支援物資を発送)

また、マラウィでは、同様に愛媛大学大学院に2年間留学し、帰国後はマラウィ政府官僚である現地協力者のモーゼスさんが、両親を失ったマラウィ孤児支援を続けてくださっています。彼は、子どもたちの生活状況の改善、継続して学校に通うための教育支援、将来の就労・自立につなげる支援活動を進めていますが、教育の重要性に対する認識・理解不足もあって簡単にはいかない厳しい現実があります。彼は、新たなチャ

レンジとして、改善を図るための孤児支援のセンター的機能を担う孤児院建設を計画しており、その実現に向けた具体的な活動を進めています。(孤児院建設へのご協力をHPにてお願いさせていただいております)



(左の白Tシャツの方がモーゼス氏、彼を中心とした現地協力者が孤児のために生活・教育のサポートを献身的に行っている。)

支援活動を続けていく中では、子どもたちの成長・自立といった喜びとともに、いろいろな困難が生じてくることが事実です。こうした中で感じることは、始めることよりも現地の方々と共に「続ける」ことがより重要であるとともに、諸外国の子どもたちに対して重い責任を負っているということです。

例えば、日本の支援活動において、現地に学校を建てようとして寄付を募り、学校を建てたという報道を聞きます。日本のお金は、途上国に対して大きな力を持っていますから、ハード面だけであればそんなに困難ではありません。しかし、現実には、例えば3年後に、こうした学校が順調に運営されていることは、極めて少なくなります。大切なのは、「学校を建てた」後も責任をもって関わるかどうかだと思っています。

この度、アジアキッズケアの支援活動を紹介するブログを開設しましたので、ご覧いただければ幸いです。
<アジアキッズケア公式ブログ> <http://pub.ne.jp/asiankidscare/>

アフリカ・マリ支援活動の新たな進展

マリ支援は、現在愛媛大学大学院に留学しているコナリーさんと現地協力者である彼の両親とともに、約1年前からスタートしました。マリは、アフリカの中央部のサハラ砂漠の中にあって、国土の約6割が砂漠という厳しい環境のため、人々は食糧不足などで貧しい生活を強いられています。

マリの小学校の子どもたちに対して、支援物資を発送し、第1回(2008.12 発送、2009.4 贈呈)、第2回(2009.7.24 発送、2009.10.28 贈呈)において、現地協力者より「ハンド to ハンド」で手渡すことができました。12月には、第3回目の支援物資の発送を予定しています。



(第1回支援：村に1つの小学校で子どもたちに支援物資を手渡す) (第2回支援：村長さんなど村を挙げての協力により贈呈する)

マリから、子ども支援活動の報告と写真が届いた時、コナリーさんは、興奮して電話をかけてきました。そして、一緒に力を合わせてマリの子どもたちにもっと支援物資を送りたいと話したのです。

しかし、マリ支援は、決して順調にスタートできたわけではありませんでした。マリの現状を聞き、子ども支援のビジョン、現地協力者との連携、支援物資の「ハンド to ハンド」による子どもたちへの提供、孤児たちの生活・教育のサポート等を話し合う中で、障壁や困難が出てきたのも事実です。

最初、現地から帰ってきた返事は、YMCA等の現存する支援団体を介して進めたのでいいのではないかと、実現するためには多くのコストと労力が必要ではないか等の意見が出され、アジアキッズケアとの信頼関係や現地の支援体制も確立できていないため、当初は「NO」のニュアンスが強かったのです。

けれども、コナリーさんの両親を中心に現地での協力が得られることになって、支援活動を開始し、その後は私たちの想像を超える現地の支援者の協力と反響があり、村を挙げての無償の協力が得られたのです。

この報告を一番喜んだのは、このことを一番望み、困難を乗り越えたコナリーさんでした。私たちは、支援活動のお手伝いをさせていただきましたが、一緒にこの喜びを分かち合えたことを心から感謝しています。

今後、マリの孤児及び生活困窮の子どもたちのために、生活・教育の経済的サポートを行う里親支援を進めていくこととしております。(孤児里親支援へのご協力をHPにてお願いさせていただいております)